

21世紀水倶楽部だより

発行：特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部
発行者：安藤 茂
編集：特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部 広報担当
〒171-0011 東京都豊島区目白2-1-1
URL <http://www.21water.jp/>
E-mail info1@21water.jp

第15号 2010年11月22日号

「認定 NPO」を目指そう

理事・事務局長 中川 幸男

NP0 21世紀水倶楽部は、平成15年8月に東京都より認証を得てから、7年が経過しました。その間に、会員数は正会員が49名から77名になり、公務員OBだけではなく民間企業からの参加者も増えました。事業活動も活発になり、今年はセミナーや研究集会など一般市民を対象にした企画が増えてきました。



という事は、当倶楽部は、「肩慣らしの段階」は終わったということではないかと思えます。次の段階に進む時期ではないかということで、表題の提案となった次第です。

現在、NP0 法人として認証されている法人数は、40,947 (H22.09) ありますが、そのうち認定 NP0 は、186 法人しかありません。実に0.45%です。

では、「なぜ認定 NP0 を目指すのか？」ということですが、NP0 法人の主要な財源であるはずの寄附にも課税されるため、企業も個人も寄附を躊躇しているのが現状です。しかし、認定 NP0 法人への寄附には、税制上の優遇措置が講じられています。優遇措置の概要は、次の通りです。

- ① 個人が寄附した場合……総所得から寄附金を控除できる
- ② 法人が寄附した場合……損金算入が認められる
- ③ 相続人が寄附した場合……相続税の課税対象外となる
- ④ 収益事業で得られた利益を非営利活動に投入する場合……非課税となる

このような優遇措置があれば、寄附を集め易くなりますし、収益活動による資金確保が容易になります。NP0 活動の幅が大きく広がることとお判り頂けると思えます。

NP0 活動を主とする法人に税制上の優遇措置が講じられる

のは当然であると思えます。現に、欧米では実施されています。しかし、日本では、ごく一部の法人にしか認められていません。認定 NP0 になるための認定要件が厳しすぎるため、これが、日本の NP0 活動が普及しない最大の原因であると言われています。

厳しいと言われる認定要件の主な点を紹介しましょう。

- ① 総収入に占める寄附金の比率が33%以上であること
- ② 会員対象活動、特定の者に便益が及ぶ活動が50%未満であること
- ③ 会計について公認会計士の監査を受けているか、青色申告法人と同等の帳簿の記録があること
- ④ 総事業費の内、非営利活動事業費が80%以上であること
- ⑤ 寄附金の内、非営利活動に充てた額が70%以上であること
- ⑥ 情報公開（事業報告書、役員名簿、給与規定、など）をしていること

では、「NP0 21世紀水倶楽部が、認定 NP0 になれるのか？」という点について、検討してみましょう。判定は、過去5年間の実績を基に行われます。

- ① の寄附金の比率ですが、当倶楽部の全収入は会員の会費に依っています。会費は寄附金と看做されます。平成17～21年の5年間の平均は91%となり合格です。
- ② 全ての活動が非営利活動ですから、これは問題なしです。
- ③ 会計処理の問題も、青色申告法人と同等の帳簿がありますので、これも問題なしです。
- ④ 非営利活動費の比率は、全てが非営利活動ですから、これも問題なしです。
- ⑤ 寄附金に対する非営利活動費の比率は、5年平均で61%でした。平成18、19年の活動が低調（31%、47%）であったため、70%に届かず、不合格です。
- ⑥ 情報公開については、インターネットおよび事務所で公開

していますので、これも問題なしです。
以上のとおり、問題点は⑤の非営利活動量の不足ということになります。

平成20、21年は、事業活動が非常に活発でした。この調子で行けば、平成23年には、目標達成が期待されます。会員皆さんの奮起をお願いします。

日本も今後は規制緩和が進み、寄附文化が広まることと思います。法人制度改革や地方税法の改正など新しい流れが生まれています。NPO法人制度の見直しも検討中とのことです。今後のNPO活動が大きな盛り上がりを見せることは間違いありません。

NPO 21世紀水倶楽部も新しい時代に向けて、大きく羽ばたこうではありませんか。

2010年度活動報告

シンポジウム「多摩川の水、これまでとこれから」

阿部 恭二

10月16日(土)、川崎市の多摩川沿いに位置する二ヶ領せせらぎ館において標記のシンポジウムが開催されました。このシンポジウムは、当NPOと、多摩川水系・流域の環境活動等に取り組むNPO 多摩川エコミュージアムの主催で、国土交通省京浜河川事務所、東京都下水道局、川崎市上下水道局の後援で開催されたもので、市民、行政、民間企業など合わせて約70名が参加し、活発な議論が行われました。

シンポジウムは事例発表と総合討論の二部構成で行われ、第一部の事例発表では東京都下水道局流域下水道本部技術部計画課長の中坪雄二氏、川崎市上下水道局下水道部技術開発・雨水貯留管担当課長の伊達知見氏、国土交通省京浜河川事務所河川環境課長の国頭正信氏の3名が多摩川の現状と行政の取り組みを報告しました。また、NPO 多摩川エコミュージアム副代表



理事で、子どもたちの学び・遊び場として川という自然の教育力を活用した「かわさき水

辺の楽校」校長の佐々木梅吉氏と、同じくNPO 多摩川エコミュージアム副代表理事の松井隆一氏がそれぞれ自らの経験を踏まえた市民の活動を紹介しました。

これらの事例発表を踏まえて第二部では、21世紀水倶楽部理事の栗原秀人氏がコーディネーターとなり、事例発表を行った5名も参加し、さらに会場に訪れた市民や自治体関係者なども交えて総合討論を行い、高度処理費用や環境ホルモン、下水の水温上昇対策など活発な議論が繰り広げられました。

総合討論の締め括りとして、多摩川に対する将来の夢を会場から募ったところ、「一人ひとりが身近な問題として、多摩川の水をきれいにするためのやり方を考えていかなければならない」(主婦)、「多摩川はアユの穴場だと思っているが、それに使われたものをもっと清掃していきたい」(釣人)などの声が聞かれました。

また、シンポジウム終了後には、国土交通省京浜河川事務所の協力を得て、二ヶ領宿河原堰の見学会も開催されました。



詳細はHPのシンポジウム報告をご覧ください。

会員だより

日本スリーデーマーチに参加して

安久津 赳

ここ1、2年各地で行われている「ツデーマーチ」や「スリーデーマーチ」に時々参加している。つい最近も11月5日から7日にかけて埼玉県の東松山市周辺で行われた「第33回日本スリーデーマーチ」に参加した。この行事は名前からもわかるように、週末の金曜日から日曜日にかけての3日間に予め決められた5Kmから50Kmのコースを歩くイベントである。

我が国では毎週土曜日、日曜日にかけて、どこかで「ツデーマーチ」などのウォーキングイベントが行われているという。その頂点といわれているのがこの「日本スリーデーマーチ」である。全国各地からのみならずヨーロッパや韓国などからの参加者も多い。

今年のスリーデーマーチには3日間とも絶好の天気にも恵まれて、3日間にのべ8万人以上のウォーカーが参加した。小生は2日目は都合が悪く参加できず、初日の20Kmと3日



目の30Kmの2日間の参加であったが、3日間連続していて参加している人も多い。初日の金曜日には地元の小中学校の児童や生徒も学校ぐるみで多数が参加していた。

コースは東上線東松山駅近くの市役所をスタートして、周辺の市街地や「里山」などを一周してまたスタート地点に戻ってくるように設定されている。3日間ともコースは違い、小生が参加した1日目は西に向かうルート、3日目は南に向かうようになっていた。コースの大部分はほぼ平坦で殆どの人が毎時5Km程度の速さで歩けるように設定されている。途中休憩も含めて20Kmのコースはほぼ5時間、30Kmのコースはほぼ7時間で無事「完歩」した。例年より少し遅れてはいるものの、やっと木々が色づき始めた中の楽しいウォーキングであった。



このような行事に参加するのは今回が初めてではない。2年ほど前に体調を崩して家にひきこもっていて体重が増え、そのために血糖値が上がって「糖尿病」の初期と医者に言われ、減量のためにウォーキングを始めたのである。

これまでに「飯能ツーデーマーチ」「小田原ツーデーマーチ」「東京国際スリーデーマーチ」と関東が主であるが、今年の夏には札幌での大学の同期会に参加したおりに旭川で行われた「旭川大雪ツーデーマーチ」にもいずれも1日限りではあるが参加している。

70歳を過ぎて完全な年金生活に入り健康の維持のために当分ウォーキングを続けたいと思っているこの頃である。

ロサンゼルス見聞録その4 孫と義務教育（その1）

内田信一郎

孫は2005年8月30日生まれなのでやっと5歳になったばかりである。アメリカの学校は9月1日より新学期が始まり、翌6月末で終わる。日本風に読み直すと、孫は3月30日生まれで殆ど1年早く4月1日から小学校に入るようなものである。

日本の義務教育は6歳で入学する小学校と中学校の9年間であるが、アメリカは5歳からの幼稚園（1年間）、小学校、中学校、高等学校の13年間である。この間の教育費が基本的に不要なので生活費が大いに助かる。

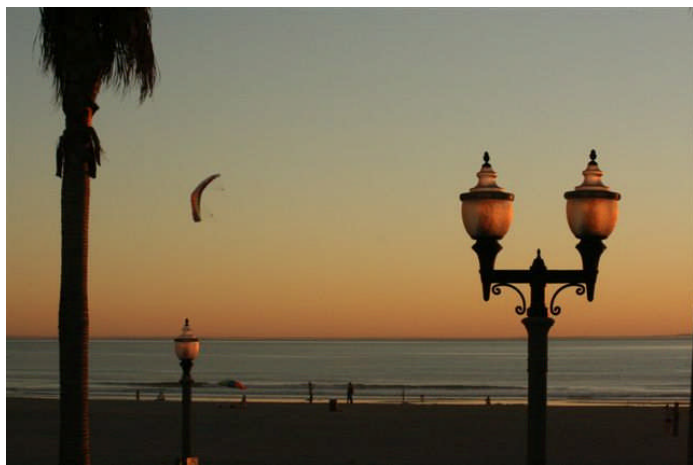
孫は幼稚園に上る前は保育園に通っていた。保育園は日系の経営する所、アメリカ人の経営する一般的な所や韓国系の所と多数の選択肢があって迷ったようであるが、娘の会社の直ぐそばに韓国のキリスト教会の経営する保育園があったので孫の送迎には便利であったことと費用が一番安かったので選んだと聞いている。孫は日本語、英語と韓国語の3ヶ国語を使い分ける保育園時代を送ったことになる。保育園でも幼稚園移行の事を考慮して年長組は英語で保育するが、幼稚園に上ったので韓国語は直ぐに忘れるであろう。

最近、娘と電話していると、孫は日本語より英語で話すので必死に日本語を忘れないように自宅で教育をしているらしい。先日も電話していて最後に娘が孫に「おじいちゃん、おばあちゃんがグッバイと言っているよ。一郎、何か言いなさい」といったら「nothing」との声が聞こえてきた。日本語が少し出にくくなってきているようだ。今迄、誕生日やクリスマスのプレゼントが欲しい時は直ぐに出てきて孫は日本製のおもちゃなどを指名するのが常であった。

さてアメリカの義務教育は13年間と長く、国家の教育予算が膨大となっていたが、近年の大不況で教育予算がどんどん削られているようだ。また、教育予算は国家のみならず、郡や自治体でも自由に増減が出来るようで、現在は一般に教育予算削減の時期で教育現場が非常に苦しいようである。

日本では週5日の授業日が基本で、夏休み、正月休み、春休み期間は日本全国ほぼ同じである。アメリカではこれが自由に予算枠にあわせて変更できるようで、ハワイ州では週3日しか授業がないらしい。カリフォルニア州のオレンジ郡でも5日の授業日のある科目を2人の先生がワーキングシェアをしているとか、クリスマス・正月休みをさらにもっと長く

伸ばし、給与をカットしている自治体があると聞いている。このとき、家計に大きな負担がかかることが発生する。通常、アメリカでは主婦も働きに出ているので授業がない日が増えると、子供をどこかに預けて出勤せねばならないので、子供を預けるデイケア費用が増加するようで、これが家計を圧迫してきている。学童が3、4人もいる家では主婦は退職して自宅で子供を養育するほうが経済的と判断し、学童年齢を過ぎれば、また主婦も働くようである。



酔童感話 第9話 萩丸宅マンションの耐震補強

伊達 萩丸

日本で怖いものの中で、「地震・雷・火事・おやじ」と真っ先に挙げられるのが地震である。

この夏は、萩丸も地震に振り回されたので、本来のキーワード「水・環境」から外れて、「技術」と言う面で強引につながりをつけ、雑文を書かせていただく。

さて、平成7年（1995年）1月。阪神・淡路大震災と言う未曾有の災害が発生した。本当に神戸の大都市が無くなってしまった。萩丸も、仕事なんかせずCNNのテレビにかじりついた。その時に大きな被害を出したのが、三ノ宮駅前のデパート群だ。低層階がつぶれてその上に、ほとんど形を崩さないまま、上層階が乗っていると言う状況。

これは、低層階でデパートに入った時に「広い」「品物がいっぱいある」と感覚的に錯覚させる様に、1階はなるべく壁を排除し、上層部の荷重を柱で持たせるようにした、「ピロティ型構造物」であったからだ。

釣り竿は竿の先が細く、次第に手元で太くなる。その状態でしなるが、その形が単純梁のモーメント図で、つまり握り

を地球面に鉛直に立てたらば、釣竿は横に大きく引っ張られる事になる。当然、地面に近いほど太くて丈夫な竿でなければ折れてしまう。

それがピロティ構造では逆の構造で、上階は小さなテナント、区切られた店が多いから、耐力壁を多く入れることが出来、建物全体を太い柱として構造的に機能させることが出来る。しかし、1階そして地下駐車場など、低層階は各フロアのスラブ厚を厚くし1枚板として、上載荷重を柱の本数で割り算、柱だけで荷重を支えることになる。横方向の地震荷重は、大体上載荷重の1割を見ることになっていた（当時）から、本当に、釣竿の先端を手元に持って、握りの方に糸をつけて釣りをするようなものだ。

だから、ピロティ構造物は地震に弱い。しかし、すでにその構造をした建物が建ってしまった。萩丸の住居のマンションもそうであった。マンションの入居個数は270戸程の大きさであるが、その中に、「構造図が分かり、構造計算が出来、いざと言う時、構造のプロに援助を頼める技術士」なんて住人は、萩丸のみ。しょうがないから、「自分の家だからしょうがあるけれども」懸命に荷重計算と、新しくなった建築の新耐震基準（平成9年に出来た、阪神・淡路級地震級対応）に照合して、結局、萩丸マンションは、1階に駐車場を持つ、ピロティ型構造物で、1階柱に何らかの補強措置（太くする等）が必要であることが分かった。

さて、阪神・淡路大震災で、横にぶっ倒れた、阪神高速道路。復旧方法をご存知か。結局、上載荷重に対し、釣竿の様に根元を太くしてやれば、大きく横に揺れても、柱が根元で折れない。したがって、地震で折れ曲がった鉄筋は、伸ばし、切断し、ジョイントでつなぎ、さらには、その鉄筋に添え木のように鉄筋を溶接する。すると、スカスカの鳥かごになるから、鉄の輪（型枠兼用）を適当な高さまではめ、スランプ値の低い、超強力固練り生コンを注ぎ込む。固まったら鉄の輪をはめてその繰り返し…。こうして、出来上がった阪神高速道路の修復部は地上部から8割ぐらいの高さまで、一回り太い柱になった。太い竿になったのだ。

わがマンションは、駐車場で耐力壁を増設することが出来ない。柱が矩形断面だから太くし、必要な断面太さを割り出し、鉄筋込各面4cm程度増やしてやれば大丈夫な事がわかった。

もう施工完了したので、柱が太くなった事が分かるのは、



外壁のタイル面内にすぐ構造柱がある箇所だけ。また施工は簡単に、強力エキスパンションメタルを、鉄筋代わりにボルトオン、それに鉄筋を溶接。その上から、超固練りの現場練、超早強生コンを左官が塗る。各面厚さ2cm以上に仕上げ、その上から化粧塗装をして出来上がった。

(写真ではタイル)

前回の宮城県沖地震が1978年、今年は地震後30年である。そろそろ地震が再発すると言われているが、とにかく、萩丸宅はわが構造計算によると、阪神・淡路級の大規模地震が来ても、構造物の倒壊はないであろうということになった。まあ、萩丸的予測では、「倒壊は絶対無い」と断言しよう！！なぜなら、今年もツバメが来訪し、わがマンションにあるツバメの巣はこれで5個にもなったから！

人間よりなまずの方が地震予知に優れているように、ツバメさん家族が5軒もある萩丸家はもし、再度宮城県沖地震が発生しても、大丈夫なのだ！



お知らせ

- ・ 11月30日(火)に研究集会「下水道と温室効果ガスコントロール」が開催予定です。詳しくは事業スケジュールの頁をご覧ください。参加申込みは参加登録送信フォームから

編集幹事のあと整理

- 巻頭文は中川理事・事務局長の認定NPO制度への課題。国税当局のガードの掛けすぎで、有名無実の制度となっていますが、当NPOでの挑戦や如何に。会員の皆様の活動にかかっています。政権交代で民主党政府が制度を改善すると言っていますが、政局の連続でその行方は不透明と言わざるを得ません。中川氏のNPO問題にかける意欲は、本日より第二号「21世紀水倶楽部はどこへ行くのか？」にも。
- 阿部理事からは、「多摩川の水、これまでとこれから」シンポジウムの報告。編集幹事は参加し損ないましたが、シンポジウムの題名の「これまでとこれから」の部分に感心しています。ひらがなののに何故か問題意識がすぐに伝わってきます。文末のリンクから詳細のページに飛べます。私と同様、聞き損なった方はアクセスください。
- 会員だよりのトップは安久津会員から。シニアの健康のための活動例です。
- 会員連載ものは、内田会員のロサンゼルス見聞録シリーズと、齋藤会員(伊達萩丸)の技術シリーズ、今回は建築+生物ものです。
- 会員だよりにコーナーへの投稿を大歓迎します。遠隔会員バージョンから発展し、近間会員やら新入会会員まで戦線を広げてお待ちしております。随時、編集幹事・望月あてメール添付で文と写真をお送りください。直近号に掲載させていただきます。
- 文中のリンク先では詳しい内容がご覧いただけます。

編集幹事・望月